

Economic Indicators

発表日: 2021年12月3日(金)

主要経済指標予定(2021年12月6日~12月10日)

(株)第一生命経済研究所 経済調査部
日本経済短期チーム (TEL: 03-5221-4525)

(12月6日~12月10日の主なイベント、指標予定)

	指標名	当社予測	市場予測	市場予測レンジ	前回結果
12月6日 (月)					
12月7日 (火)	8:30 10月毎月勤労統計 名目賃金(前年比)	—	—	—	+0.2%
	8:30 10月家計調査(二人以上の世帯) 実質消費支出・全世帯(前年比)	▲1.2%	▲0.6%	▲2.5%~+1.2%	▲1.9%
	実質消費支出・勤労者世帯(前年比)	▲0.7%	▲0.3%	▲2.1%~+1.6%	▲3.0%
	8:30 10月家計消費状況調査				
	8:30 10月家計消費単身モニター				
	8:30 10月消費動向指数				
	14:00 10月景気動向指数・速報 CI一致指数(前月差)	+2.0pt	+1.2pt	+1.1pt~+1.6pt	▲2.6pt
	CI先行指数(前月差)	+1.2pt	+1.9pt	+0.4pt~+2.6pt	▲0.4pt
	14:00 10月消費活動指数(旅行収支調整済) 実質季節調整済み(前月比)	—	—	—	+0.7%
12月8日 (水)	8:00 12月ロイター短観 製造業DI	—	—	—	13
	非製造業DI	—	—	—	1
	8:50 7-9月期GDP2次速報 実質GDP成長率(前期比)	▲0.7%	▲0.8%	▲0.9%~▲0.4%	▲0.8%
	(同年率)	▲2.6%	▲3.2%	▲3.5%~▲1.5%	▲3.0%
	名目GDP成長率(前期比)	▲0.5%	▲0.6%	▲0.8%~▲0.4%	▲0.6%
	GDPデフレーター(前年比)	▲1.1%	▲1.1%	▲1.3%~▲1.0%	▲1.1%
	8:50 10月国際収支統計 経常収支(原数値、億円)	+11,411	+12,832	+9,169~+15,282	+10,337
	8:50 11月貸出・預金動向 国内銀行貸出残高(前年比)	—	—	—	+0.8%
	14:00 11月景気ウォッチャー調査 現状判断DI(季節調整値)	57.7pt	57.3pt	56.0pt~58.5pt	55.5pt
	先行き判断DI(季節調整値)	58.0pt	57.7pt	53.5pt~59.0pt	57.5pt
12月9日 (木)	8:50 11月マネーストック M2(前年比)	+4.1%	+4.1%	+3.9%~+4.2%	+4.2%
	M3(前年比)	+3.7%	+3.7%	+3.6%~+3.9%	+3.7%
	広義流動性(前年比)	+5.0%	+5.0%	+3.3%~+5.1%	+5.0%

	8:50	10-12月期法人企業景気予測調査 景況判断BSI大企業製造業 全産業	—	—	—	+7.0 +3.3
	13:30	10月特定サービス産業動態統計調査				
12月10日 (金)	8:50	11月企業物価指数 (前月比) (前年比)	+0.6% +8.7%	+0.4% +8.5%	0.0%~+0.7% +6.6%~+9.2%	+1.2% +8.0%

7-9月期GDP 2次速報・実質GDP成長率 当社予想：前期比年率▲2.6% 中央値：同▲3.2%

前期比年率▲2.6%（前期比▲0.7%）と、1次速報の前期比年率▲3.0%（前期比▲0.8%）から小幅上方修正されると予想する。設備投資の減少幅が縮小（1次速報：前期比▲3.8% → 2次速報予測：前期比▲2.5%）するとみられることが影響する見込み。

（経済調査部長・首席エコノミスト：新家 義貴）

10月実質消費支出（二人以上の世帯、全世帯） 当社予想：前年比▲1.2% 中央値：同▲0.6%

前年比では減少が継続するが、前月比でははっきり増加するだろう。緊急事態宣言解除に伴って人流は回復しており、サービス関連を中心として消費は持ち直した可能性が高い。

（経済調査部長・首席エコノミスト：新家 義貴）

10月景気動向指数 CI一致指数／CI先行指数 当社予想：前月差+2.0pt／+1.2pt 中央値：同+1.2pt／+1.9pt

CI一致指数を前月差+1.2ポイントと、4ヶ月振りの上昇を予想する。8、9月と2ヵ月連続で急低下していたが、10月は小幅ながら反発が予想される。8、9月の落ち込みの主因だった自動車の大幅減産が、10月は若干和らいだことが背景にある。内訳では、耐久消費財出荷指数や生産財出荷指数、輸出数量指数など、輸出・生産関連による押し上げが目立つ形となっている。なお、内閣府によるCI一致指数の基調判断は前月に続いて「足踏み」が予想される。

（経済調査部長・首席エコノミスト：新家 義貴）

10月国際収支・経常収支（原数値） 当社予想：11,411億円 中央値：12,832億円

部品調達難による自動車減産の影響で輸出は大幅に下押しされた状況が続いたものの、前月からは持ち直したことで貿易収支の赤字は縮小が見込まれる。加えて、円安の進行により第1次所得も黒字幅が拡大した可能性が高く、経常収支の黒字幅は拡大する見込み。先行きについては、供給制約の緩和により自動車を中心として輸出が持ち直しに向かう一方、輸入も高止まりが続くとみられることから、貿易収支は赤字での推移が続くだろう。経常収支の回復ペースは緩やかなものとどまる見込み。

（副主任エコノミスト：大柴 千智）

11月景気ウォッチャー調査 現状判断DI / 先行き判断DI (季節調整値) 当社予想 : 57.7pt /**58.0pt 中央値 : 57.3pt / 57.7pt**

11月景気ウォッチャー調査の現状判断DIを57.7pt、先行き判断DIを58.0ptと、それぞれ前月から上昇を予想する。現状判断DIは、11月中も国内新規感染者数が低位で推移し、人流が増加していたことから、小売や飲食等の家計関連の上昇が続くことで、60近傍の高い水準となるだろう。先行き判断DIについては、月末に新たな変異種であるオミクロン株の国内感染例が報告されたものの、今回の調査期間には十分に反映されていない可能性が高い。政府による経済対策等を受けた本格的な経済再開への期待が続いたことで、前月から上昇が続くだろう。

(副主任エコノミスト : 大柴 千智)

11月企業物価指数・国内企業物価 当社予想 : 前年比+8.7% 中央値 : 同+8.5%

11月の国内企業物価を前月比+0.6%、前年比+8.7%と予想する。世界的な需給ひっ迫に伴う既往の原油価格の高騰を反映して、石油・石炭製品、化学製品、電気・ガス・水道といったエネルギー関連が国内企業物価を押し上げる展開が続くだろう。先行きについても、既往の原油価格上昇がラグを伴って反映されることで、当面は電気・ガス・水道が牽引役となって高い伸びが続く見込み。

(副主任エコノミスト : 大柴 千智)

図表1

2021年7-9月期GDP予測

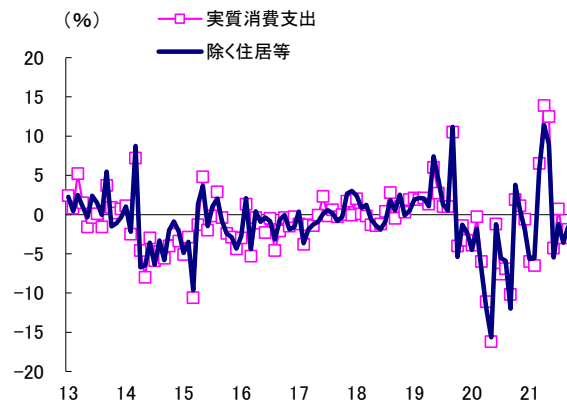
(%)	
実質GDP	▲ 0.7
(前期比年率)	▲ 2.6
内需寄与度	▲ 0.8
(うち民需)	▲ 1.0
(うち公需)	0.2
外需寄与度	0.1
民間最終消費支出	▲ 1.1
民間住宅	▲ 1.6
民間企業設備	▲ 2.5
民間在庫変動(寄与度)	0.3
政府最終消費支出	1.1
公的固定資本形成	▲ 2.3
財貨・サービスの輸出	▲ 0.8
財貨・サービスの輸入	▲ 0.9

※断りの無い場合、前期比(%)

(出所)内閣府「国民経済計算」、第一生命経済研究所

図表2

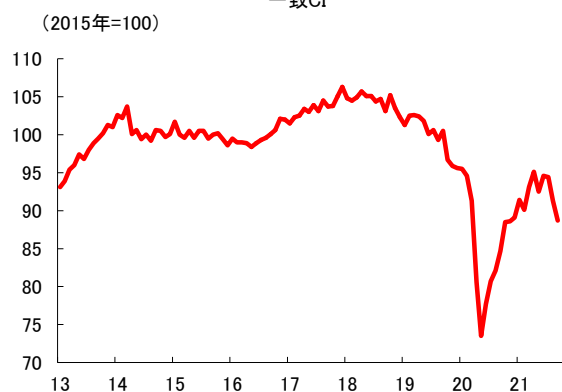
家計調査(実質消費支出・前年比)



(出所)総務省「家計調査」

図表3

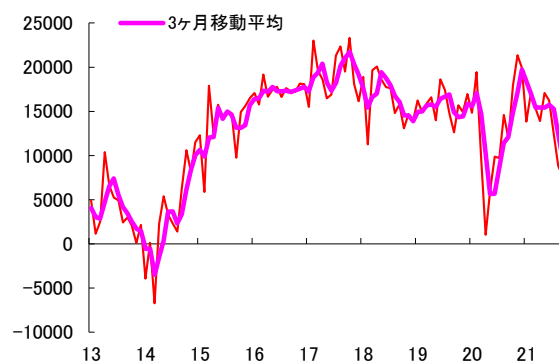
一致CI



(出所)内閣府「景気動向指数」

図表4

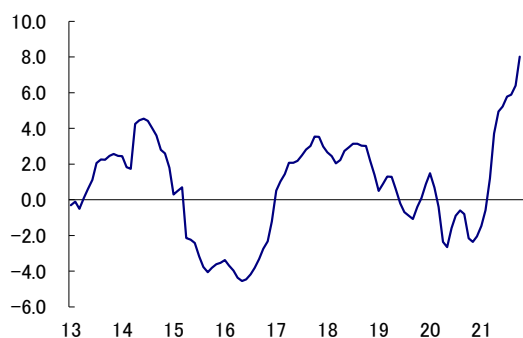
経常収支(季節調整値)



(出所)財務省「国際収支統計」

図表5

国内企業物価指数(前年比)



(出所)日本銀行「企業物価指数」

図表6

景気ウォッチャー調査(季節調整値)



(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

